

「令和」を読み解く

万葉集の歴史と背景

博令制度と地方サロン	山上憶良·山部赤人	大伴家持	大伴旅人	柿本人麻呂	額田王、天武天皇	知名度抜群の代表的歌人	力葉集の成立と時代背景
-				100			

17 16 15 14 12

万葉集の構成と歌

万葉仮名の表記を楽しむ26	歌の種類と形式	万葉集の構成と区分
---------------	---------	-----------

立耶女/ 目思はな 人を思ふよ	立郎女/皆人を寝よとの鐘は	立郎女/我が命の 全けむ限り	立郎女 /わが形見 見つつ偲はせ	読人しらず/幸ひの いかなる人か	但馬皇女/人言を「繁み言痛み	人伴坂上郎女/夏の野の 繁みに咲ける	人伴坂上郎女/恋ひ恋ひて 逢へる時だに	読人しらず/思ひにし 余りにしかば	読人しらず/朝寝髪 我は梳らじ	読人しらず/待つらむに 至らば妹が	忡本人麻呂歌集/垂乳根の 母が手離れ	忡本人麻呂/天飛ぶや 軽の道は	然野茅上娘子/我が背子が 帰り来まさむ:	〒臣宅守 /青丹よし 奈良の大道は	送野茅上娘子/君が行く 道の長手を	一一 おして 照らせる
5	75	74	74	73	73	72	72	71	71	70	70	68	67	66	66	65

読人しらず/この夕 降りくる雨は	る	•	 	は	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
85	5 84	84	83	82	82

田子の浦ゆ うち出でて見れば山部赤人/

ハ々が愛した舞台を知る

宝徳太子/家にあらば 妹が手まかむ 野明天皇/大和には 群山あれど が明天皇/大和には 群山あれど	1代方 2 / 2 7 四 一覧 1 まる 1 1 4 2
--	-------------------------------

新羅使人の妻/君が行く「海辺の宿に	唐使の母/旅人の「宿りせむ野に	明皇后/大船に 真楫しじ貫き	辺福麻呂/立ち変はり 古き都と	武天皇/橘は 実さへ花さへ	本人麻呂/大君は 神にしませば	間皇子/家にあらば 笥に盛る飯を	来 (伯)皇女/うつそみの 人なる我や	津皇子/百伝ふ 磐余の池に	原鎌足/我はもや 安見児得たり	徳太子/家にあらば 妹が手まかむ	明天皇/大和には 群山あれど	葉人の生きた時代を感じる	人しらず/この夕 降りくる雨は	本人麻呂歌集/秋されば 川霧立てる	
95	94	94	93	93	92	92	91	91	90	90	88	86	85	84	

柿本人麻呂/天離る

額田王/熟田津に

船乗りせむと 鄙の長道ゆ

万葉集関連年表

106

万葉集歌枕マップ

108

高橋虫麻呂/葛飾の 長意吉麻呂/苦しくも

真間の井見れば

天武天皇/よき人の

よしとよく見て

105 105 104 103 103 102 101 101 100 100 99

大伴家持/女郎花 秋萩しのぎ

柿本人麻呂/東の

野に炎の

小野老/青丹よし

奈良の都は

柿本人麻呂/近江の海 夕波千鳥

高市黒人/古の

人に我れあれや

額田王/三輪山を

しかも隠すか

受け継がれる精神を感じる

柿本人麻呂歌集/しきしまの 大和の国は

78 76

天智天皇后/天の原 天智天皇后/人はよし

振り放け見れば 思ひ止むとも

80 79

遣新羅使人/我のみや

夜船は漕ぐと

95

81 80

中大兄皇子/海神の

豊旗雲に

万葉集の歌を味わう

光明皇后/我が背子と 二人見ませば	読人しらず/時雨の雨 間なくし降れば	大伴家持/雨籠り 心いぶせみ	山上憶良/秋の野に 咲きたる花を	長屋王/味酒 三輪の祝の	読人しらず/秋田刈る 仮庵を作り	大伴家持/石麻呂に 我れ物申す	小鯛王/夕立の 雨うち降れば	高橋虫麻呂/かき霧らし 雨の降る夜を	読人しらず/風に散る 花橋を	持統天皇/春過ぎて 夏来るらし	田辺福麻呂/藤波の 咲き行く見れば	山部赤人/春の野に すみれ摘みにと	読人しらず/春日なる 三笠の山に	志貴皇子/石走る 垂水の上の	読人しらず/梅が枝に 鳴きて移ろふ	読人しらず/冬過ぎて「春来るらし	読人しらず/春は萌え「夏は緑に	額田王/冬ごもり 春さり来れば	日本の四季の美しさを感じる
44	43	43	42	42	41	40	40	39	39	38	37	37	36	36	35	35	34	32	30

舎人皇子 / 古すらをや 片窓せまと	è	額田王/君待つと 我が恋ひ居れば	大海人皇子/紫の にほへる妹を	額田王/あかねさす 紫野行き	切ない恋愛から立ち直れる	山上憶良/瓜食めば 子ども思ほゆ	山上憶良/風交じり 雨降る夜の	読人しらず/埼玉の 津に居る舟の	/多摩川に 曝す手作り	/稲搗けば 皹る吾が手を	商長首麻呂/忘らむて 野行き山行き	若倭部身麻呂/我が妻は いたく恋ひらし…	他田舎人大島/韓衣 裾に取り付き	読人しらず/防人に 行くは誰が背と	乞食者の歌/おしてるや 難波の小江に	悲喜こもごもの声を聴く	山部赤人/天地の 分かれし時ゆ	大伴家持/新たしき 年の初めの	読人しらず/冬過ぎて 春し来れば
6	4	64	63	62	60	58	56	55	55	54	53	53	52	52	50	48	46	45	45





110